

2026

令和8年度

学生募集要項

大学院
保健学研究科
(修士課程)

保健学専攻

■ 看護学領域

■ リハビリテーション学領域



藤田医科大学大学院保健学研究科
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

目次

概要(アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー)・・・	1
1. 募集人員と出願日程・・・・・・・・・・・・・・・・	3
2. 出願資格・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3. 入学資格審査・・・・・・・・・・・・・・・・	4
4. 出願手続・・・・・・・・・・・・・・・・	5
5. 選抜方法・・・・・・・・・・・・・・・・	8
6. 試験日程及び試験会場・入試科目・・・・・・・・	8
7. 合格発表・・・・・・・・・・・・・・・・	9
8. 入学手続・・・・・・・・・・・・・・・・	9
9. 学費納入金・・・・・・・・・・・・・・・・	9
10. ティーチング・アシスタント制度・・・・・・・・	10
11. 奨学金等・・・・・・・・・・・・・・・・	10
12. 修了の要件・・・・・・・・・・・・・・・・	10
13. 長期履修学生制度・・・・・・・・・・・・・・・・	10
14. 昼夜開講による履修及び研究・・・・・・・・	11
15. 看護学領域 急性期・周術期分野・・・・・・・・	12
16. 授業科目と担当教員（2026年度予定）・・・	13
17. 保健学研究科修士課程における特別研究の内容（2026年度予定）・・・	16
18. インターネット出願方法・・・・・・・・	21
19. 受験者注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・	24
20. 入試に関する個人成績の開示について・・・	25
21. 個人情報保護について・・・・・・・・	25
22. 試験会場地図・・・・・・・・・・・・・・・・	26
23. 交通案内・・・・・・・・・・・・・・・・	27

■ 藤田医科大学大学院保健学研究科保健学専攻（修士課程）概要 ■

看護学領域（学位 看護学）

アドミッション・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）看護学領域において次のような人材を求めます。

- (1) 看護学等を基盤として、さらに保健学諸分野に深い関心と情熱をもって自ら学び問題を探求する者
- (2) 自分の研究テーマを深く理解し、新たな発見や真理に向かって努力を怠らない者
- (3) 医療現場において、看護学、保健学の各領域における高度専門職業人や組織リーダーとしてチーム医療の担い手となる「良き医療人」をめざす者
- (4) 教育者や研究者として、看護学、保健学各領域の発展のための社会貢献をめざす者

・性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位、身体能力の如何によって、入学に關する優先性が影響されることはありません。
・禁煙への取り組み

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

カリキュラム・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）看護学領域にあつては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、コースワークである講義と演習、実習、リサーチワークである特別研究（課題研究）を体系的に科目配当し、編成しています。

- (1) 選択制の共通科目では、多領域の専門知識の理解を促し、幅広い視野に立った学識を育成する。
- (2) 専攻分野に関する科目である特論と演習では、専門分野における課題や問題点を主体的に探究し、解決する能力を育成する。
- (3) 保健学セミナーでは、必須の共通科目で、著名な研究者を招いて最新の研究動向を理解する能力と看護実践の質向上に貢献する応用力を育成する。
- (4) 特別研究（課題研究）では、看護学における課題や研究手法を立案・実施し、一貫した論理を展開でき、論文を作成する能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）看護学領域にあつては、所定の年限以上在籍して、教育の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、論文または特定の課題についての研究成果の審査および最終試験において、以下の能力を身につけていることを学位認定の基準とします。

- (1) 看護学分野における課題や問題点を主体的に探求する能力
- (2) 幅広い視野に立った学識を備え、先行研究を深く理解する能力
- (3) 新規性（独創性）のある課題や研究手法を立案・実施する能力
- (4) 一貫した論理を展開する能力
- (5) 看護学分野における研究能力、あるいは高度な専門性を必要とする職業を担うための能力

■ 藤田医科大学大学院保健学研究科保健学専攻（修士課程）概要 ■

リハビリテーション学領域（学位 保健学）

アドミッション・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）リハビリテーション学領域において次のような人材を求めます。

- (1) 保健学・医学をはじめとした医療の諸分野に広く関心をもち、自ら課題を探究する者
- (2) 情熱をもって自身の研究テーマの理解を深め、真理に向かう努力を怠らない者
- (3) 研究者として医療分野を発展させ、社会に貢献する意識をもち続ける者
- (4) 保健学を発展させるため、自身も学び続ける教育者をめざす者
- (5) チーム医療における高度専門職業人やリーダーとして、社会に貢献する医療者をめざす者

・性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位、身体能力の如何によって、入学に関する優先性が影響されることはありません。
・禁煙への取り組み
藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方とします。

カリキュラム・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）リハビリテーション学領域にあつては、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、コースワークである講義と演習、リサーチワークである特別研究を体系的に科目配当し、編成しています。

- (1) 選択制の共通科目では、臨床を含めた多領域の専門知識の学修を通して、視野の広い学識を育成する。
- (2) 専攻分野の特論と演習では、基礎学力の向上を図るとともに、各分野における研究発展の系譜の理解を通して主体的に課題を探究し、解決する能力を育成する。
- (3) 保健学セミナーでは、著名な研究者を招いて最新の研究を学び、研究動向を理解する能力を育成する。
- (4) 特別研究では、課題の探究、解決手段の立案、調査や実験等の実施、論文執筆、学会発表を通して、一貫した論理展開による研究内容の発信能力を育成する。

ディプロマ・ポリシー

保健学研究科 保健学専攻（修士課程）リハビリテーション学領域にあつては、所定の年限以上在籍して、教育の理念と目的に沿って設定した所定の単位を修得し、論文の審査および研究成果についての最終試験において、以下の能力を身につけていることを学位認定の基準とします。

- (1) 専門領域における臨床に根差した課題や問題点を主体的に探究する能力
- (2) 幅広い視野に立った学識を備え、先行研究の読解を通して研究発展の系譜を理解する能力
- (3) 独創性のある課題設定や解決手法を立案し、実践する能力
- (4) 一貫した論理を展開し、学会や論文などで発信する能力
- (5) 専門分野における研究能力、および高度な専門性を必要とする職業を担うための能力

藤田医科大学大学院保健学研究科保健学専攻(修士課程)

1. 募集人員と出願日程 (社会人特別選抜、外国人特別選抜を含む)

専攻名	募集人員
保健学専攻	25名

外国人特別選抜（英語コース）は秋季入学として募集します。詳細については、別途案内しています（大学院保健学研究科入試係へ連絡してください）。

出願手続きから入学までの日程

事項	日程	
	第一次募集	第二次募集
入学資格認定申請期間 (入学資格審査の必要な者)	2025年7月28日(月) ～8月1日(金)	2026年1月13日(火) ～1月16日(金)
入学資格審査の結果発送	2025年8月8日(金)	2026年1月23日(金)
出願期間	2025年8月12日(火) ～8月22日(金)	2026年1月26日(月) ～2月6日(金)
試験日	2025年9月1日(月)	2026年2月16日(月)
合格者発表	2025年9月8日(月)	2026年2月24日(火)
学納金納付期限	2025年9月16日(火)	2026年3月2日(月)

(注1) 第一次募集で定員が充たされた場合は、第二次募集を行わないことがあります。

(注2) やむを得ない事情により予定通り実施できないと判断した場合には、第一次募集のみ予備日（2025年9月6日（土））に試験を延期することがあります。延期の場合には、ホームページでお知らせします。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより、当該国の16年の課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である

課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2026年3月31日までに授与される見込みの者

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者
（文部科学省HPの「文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧」をご参照下さい）
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) その他本研究科において、個別の資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日までに22歳に達する者

(注) 1. 出願資格(3)から(9)により出願しようとする者は、出願手続き前に大学院保健学研究科入試係へ連絡してください。

2. 出願資格(9)により出願を希望する者については、事前に入学資格審査を行います。P.4「3. 入学資格審査」参照。

3. 看護学領域急性期・周術期分野を希望する場合、出願資格(1)から(9)のいずれかに該当し、看護師の免許を有し、入学時において5年以上の実務経験を有する者としてします。

4. 出願資格(3)、(4)、(5)、(6)、(9)のうち、外国人特別選抜（英語コース）については別途ご案内しています（大学院保健学研究科入試係へ連絡してください）。

3. 入学資格審査

出願資格(9)により出願を希望する者は、入学資格審査が必要となります。**必ず希望する特別研究（課題研究）の担当教員（P.16～P.20の特別研究の内容参照）と連絡を取ったうえで、**下記要領により必要書類を受付期間内に持参又は郵送し、申請してください。

なお、本研究科所定の様式（A4サイズ）は、本研究科ホームページ（TOP > 学部・大学院 > 保健学研究科（2024年度入学以降）> 入試情報）よりダウンロードしてください。

1) 受付期間

	受 付 開 始 日	締 切 日	備 考
第 一 次 募 集	2025年7月28日（月）	2025年8月1日（金）	郵送の場合も 締切日必着のこと
第 二 次 募 集	2026年1月13日（火）	2026年1月16日（金）	

2) 提出書類

- (1) 入学資格審査申請書（本研究科所定の様式〔A4サイズ〕に記入）
- (2) 履歴書（本研究科所定の様式〔A4サイズ〕に記入）
- (3) 卒業証明書（2025年4月以降に出身学校の所定用紙を用いて発行し、発行者が原則厳封したもの）
- (4) 成績証明書（2025年4月以降に出身学校の所定用紙を用いて発行し、発行者が原則厳封したもの）
- (5) 職歴にかかわる資格免許証の写し
- (6) 研究業績調書（本研究科所定の様式〔A4サイズ〕に記入、研究業績がない場合は不要）
- (7) 返信用封筒（宛名を明記した定形封筒〔サイズ120mm×235mm〕に切手760円分を貼付）速達簡易書留にて審査結果を返信します。

(注) 1. 成績証明書等に記載の氏名と出願時の氏名が異なる場合は、改名を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出してください。

2. 書類保存期間経過等により(3)または(4)が発行できない場合は、出身学校作成の「証明書を発行できない旨の理由書」を提出してください（様式任意）。

3. 書類を提出するにあたっては、市販の角形2号（240mm×332mm）の封筒に入れ、封筒のおもてに「入学資格審査申請書在中」と朱書きしてください。郵送による提出は、必ず「書留速達郵便」としてください（**締切日必着**）。

3) 入学資格審査のための書類の提出先・問い合わせ先

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地98

藤田医科大学大学院 保健学研究科 入試係（大学3号館1階）

TEL (0562) 93-9080 FAX (0562) 93-4595

土曜・日曜・祝日・開学記念日(10/10)など学内休日・年末年始(12/29～1/3)は受け付けていません

4) 審査結果の通知

審査結果は、郵送により本人宛に通知します。入学資格「有」と認められた者は、P.5～P.6「4）提出書類」（成績証明書、卒業証明書を除く）を取りそろえ「1）出願方法」（P.5）に従って提出してください。

〈第一次募集〉2025年8月8日（金）結果発送

〈第二次募集〉2026年1月23日（金）結果発送

4. 出 願 手 続

1) 出願方法

- (1) 出願前に必ず希望する特別研究（課題研究）の担当教員（P.16～P.20の特別研究の内容参照）と連絡を取ってください。
- (2) 出願はインターネットで行います。P.21～P.23 「インターネット出願方法」の手順に従い、必要事項を入力、登録した後、入学検定料を「クレジットカード決済・コンビニエンスストア払い・ペイジー払い（銀行ATM）・インターネットバンキング」のいずれかにてお支払いください。
- (3) P.6～P.7「4）提出書類」を市販の角形2号（240mm×332mm）の封筒に入れ、封筒のおもてに「インターネット出願ガイダンス」から印刷した宛名ラベルを貼ってください。
- (4) 出願期間内に大学院保健学研究科入試係まで直接持参または郵送してください（**締切日必着**）。郵送の場合は必ず「書留速達郵便」としてください。
- (5) 「インターネットを利用した出願登録」「出願書類の提出」「入学検定料の支払い」が以下の期間内に完了していない場合は受験することができません。
- (6) 提出書類に虚偽の記載があった場合は、合格発表後においても入学許可を取り消すことがあります。

2) 出願期間

	受 付 開 始 日	締 切 日	備 考
第 一 次 募 集	2025年8月12日（火）	2025年8月22日（金）	郵送の場合も 締切日必着のこと
第 二 次 募 集	2026年1月26日（月）	2026年2月6日（金）	

3) 入学検定料 20,000円

○ 申込情報のインターネット出願登録期間・入学検定料支払期間

第一次募集 2025年8月12日（火）0時00分 ～ 2025年8月22日（金）16時59分

第二次募集 2026年1月26日（月）0時00分 ～ 2026年2月6日（金）16時59分

（注）上記の登録期間・支払期間を過ぎると登録・支払いができません。

4) 提出書類

(1) 出願確認票	<p>本研究科ホームページ (TOP > 学部・大学院 > 保健学研究科 (2024年度入学以降) > 入試情報)「インターネット出願ガイドンス」から必要項目を選択し、個人情報等を入力後、A4サイズの用紙に印刷してください。</p> <p>なお、「インターネット出願ガイドンス」の詳細についてはP.21～P.23「インターネット出願方法」を参照してください。</p>
(2) 成績証明書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者。 →出身大学(学部)長が作成し、原則厳封したもの 2. 大学改革支援・学位授与機構(旧 大学評価・学位授与機構)から学士の学位を授与(見込)された者。 →学位授与に係る「基礎資格」及び「修得単位の審査」にかかる全修得単位の成績証明書(いずれも原則厳封したもの) 3. 外国の大学その他外国の学校を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者。 →成績証明書又は成績証明書の写し 4. 文部科学大臣の指定した専修学校の専門課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者。 →出身専修学校長が作成し、原則厳封したもの 5. 短期大学、高等専門学校、専修学校を卒業した場合 →卒業した各学校の短期大学長、高等専門学校長、専修学校長が作成し、原則厳封したもの <p>いずれの証明書も、2025年4月以降に発行したものとします。 <u>※また、上記1.～3.に該当する者で、短期大学、高等専門学校、専修学校を卒業している場合は、5.についても提出してください。</u></p>
(3) 卒業(見込)証明書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学を卒業した者及び2026年3月31日までに卒業見込みの者。 →出身大学(学部)長が作成し、原則厳封したもの 2. 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与(見込)された者。 →授与された場合：学位授与証明書 →授与される見込みの場合：学位授与申請受理証明書 3. 外国の大学その他外国の学校を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者。 →卒業証明書又は卒業証書の写し 4. 文部科学大臣の指定した専修学校の専門課程を修了した者及び2026年3月31日までに修了見込みの者。 →出身専修学校長が作成し、原則厳封したもの 5. 短期大学、高等専門学校、専修学校を卒業した場合 →卒業した各学校の短期大学長、高等専門学校長、専修学校長が作成し、原則厳封したもの <p>いずれの証明書も、2025年4月以降に発行したものとします。 <u>※また、上記1.～3.に該当する者で、短期大学、高等専門学校、専修学校を卒業している場合は、5.についても提出してください。</u></p>

<p>(4) 外国語(英語)試験の免除を受けるための証明書類</p> <p>免除申請者のみ</p>	<p>以下の資格試験のいずれか一つに該当する場合、外国語（英語）試験を免除します。</p> <p>○資格試験名（条件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TOEFL iBT（57点以上）※ITPは不可 ・ IELTS（5.0以上） ・ TOEIC L&R（550点以上）※IPテストは不可 <p>該当者は、公式認定証（TOEIC L&RはQRコード付きデジタル公式認定証を印刷したものでも可）、試験成績通知書、いずれかの原本を提出してください（公式認定証、試験成績通知書は証書と異なります。証明書等の発行は、当該資格試験の事務局に問い合わせてください）。</p> <p>書類の提出期限は出願期限と同じになりますので、あらかじめ書類を用意してください。書類が期限内に提出されない場合は免除申請は受理できません。</p> <p>○証明書類の有効期間は定めていません。</p> <p>○免除の可否については、試験日前日までに郵送にて通知します。</p> <p>○受理した証明書類については、いかなる理由があっても返還しません。</p>
(5) 入学資格審査結果通知書の写し	P.3～P.4「2.出願資格」(9)により出願する場合は提出してください。
(6) 在留カード、特別永住者証明書の写し	本邦に在留している外国人出願者は、「在留カード」もしくは「特別永住者証明書」の写し（両面カラー）を添付してください。 本学に在学中の者も改めて提出してください。
(7) 出願理由書	本研究科所定の様式（A4サイズ）を印刷し、自筆で記入してください。
(8) 就学承認書	在職したまま就学しようとする場合は、本研究科所定の就学承認書（A4サイズ）を印刷し、所属長の承認を得た上で提出してください。
(9) 出願書類チェックリスト	確認欄にチェックのうえ、提出してください。

注1）成績証明書等に記載の氏名と出願時の氏名が異なる場合は、改名を証明できる書類（戸籍抄本等）を提出してください。

注2）書類保存期間経過等により(2)成績証明書または(3)卒業（見込）証明書が発行できない場合は、出身学校作成の「証明書を発行できない旨の理由書」を提出してください（様式任意）。

注3）(7)出願理由書、(8)就学承認書、(9)出願書類チェックリストは「インターネット出願ガイダンス」から印刷してください。

5) 願書受付場所・問い合わせ先

〒470-1192 愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪 1 番地98

藤田医科大学大学院 保健学研究科 入試係（大学3号館1階）

TEL (0562) 93-9080 FAX (0562) 93-4595

土曜・日曜・祝日・開学記念日(10/10)など学内休日・年末年始(12/29～1/3)は受け付けていません

6) 受験票の印刷

【印刷開始日】〈第一次募集〉2025年8月27日（水）17時00分

〈第二次募集〉2026年2月12日（木）17時00分

受験票は、試験当日必ず持参してください。

●P.23「**3**受験票の印刷」の手順に従って印刷してください。

5. 選 抜 方 法

学力試験、面接及び口頭試問などの結果を総合して行います。

ただし、学力試験、面接及び口頭試問いずれかの評価が著しく低い場合は不合格とします。

1) 一般選抜

(1) 学力試験

外国語 英語（辞書持ち込み可、ただし電子辞書は不可）

専門科目（記述式）

(2) 面接及び口頭試問

個別面接

2) 社会人特別選抜

(1) 学力試験

外国語 英語（辞書持ち込み可、ただし電子辞書は不可）

小論文・専門科目（記述式）

(2) 面接及び口頭試問

個別面接

(注)

出願資格のある者で、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士のいずれかの免許・資格を有し、当該免許に関し、入学時で3年以上（急性期・周術期分野を希望する者は5年以上）の実務経験を有する者は、社会人特別選抜による受験が可能です。

※1) 2) の選抜方法のうち、大学院学則第44条に基づく外国人学生の場合は、試験方法を一部考慮します。

(参考) 大学院学則の一部抜粋

(外国人学生の入学)

第44条 学長は、第16条に定める入学資格を有する外国人で、本大学院に入学を志願する者がある場合において、本大学院の教育、研究に支障のないときは、研究科委員会にて選考の上、入学を許可することができる。

2. 前項により入学を志願する者には、外務省在外公館、又は本邦所在の外国公館の推薦書を求めることができる。

3. 外国人学生の入学手続き、学費、その他必要事項に関する規程は、別に定める。

3) 外国人特別選抜（英語コース）

詳細については、別途ご案内しています（大学院保健学研究科入試係へ連絡してください）。

6. 試験日程及び試験会場・入試科目

〈第一次募集〉2025年9月1日（月） 集合時間 9時15分

〈第二次募集〉2026年2月16日（月） 集合時間 9時15分

※外国語（英語）試験の免除通知があった方は、11時00分までに試験会場1階へお越しください。

試験会場：本学 大学3号館

試験時間	9:45～10:45	11:15～12:45	13:45～15:15
入試科目	英 語	専門科目・小論文* *社会人特別選抜のみ	面 接

7. 合 格 発 表

〈第一次募集〉2025年9月8日（月）13時頃

〈第二次募集〉2026年2月24日（火）13時頃

本学大学2号館前の掲示板に掲示及び合格者に限り本人に郵送にて通知します。

可否についての問い合わせには一切応じません。

本学ホームページ（<https://www.fujita-hu.ac.jp/>）にも合格者の受験番号を掲載します。ホームページへの掲載については、情報の正確性に万全を期していますが、データの改ざん、通信上のトラブル、システムの「誤作動」等が発生しても本学は一切の責任を負いません。これはあくまでも可否確認の補助的な手段であり、正式には本学における掲示発表をご確認ください。携帯電話の専用画面は用意しておりません。

ホームページ掲載期間：〈第一次募集〉合格発表日 15時～2025年9月10日（水）正午

〈第二次募集〉合格発表日 15時～2026年2月26日（木）正午

ホームページの掲載は、システム上発表時間が多少前後することがありますので予めご了承ください。また、ホームページ掲載直後には、アクセスが集中し閲覧できないことがあります。その場合、しばらく時間をおいてから再度アクセスしてください。

パソコンの設定によっては、最新情報が表示されない場合があります。このような場合にはブラウザの更新キーを押すなどして表示を最新のものとしてください。

8. 入 学 手 続

- 1) 合格者は、合格通知書とともに送付する入学手続要領に従って入学手続を完了してください。
- 2) 入学手続要領に示す期限までに入学手続を完了しなければ合格を無効とします。
- 3) 外国人学生の方は、抗体価シート（予防接種歴・罹患歴）の提出が必要となります。抗体値によっては、入学時期等に影響することがあります。

9. 学 費 納 入 金

- 1) 納入期限 〈第一次募集〉2025年9月16日（火）※
〈第二次募集〉2026年3月2日（月）※ ※二段階納入方式の1次納入期限
- 2) 納入額・納入方式

① 納 入 額

入 学 金	150,000円
授 業 料	(年) 750,000円
計	900,000円

② 納入方式

二段階納入方式です。

学費納入金〈1次〉は、合格通知書とともに送付する入学手続要領に従って納入期限までに納入してください。また、残りの学費納入金〈2次〉は、振込用紙が3月中旬に発送されるので納入期限（3月末日）までに納入してください。〈1次〉〈2次〉共に期限までに納入を完了しない者は、入学を辞退したものと取り扱います。

	学納金納入期限〈1次〉	学納金納入期限〈2次〉
振込用紙の発送日	合格発表日	3月中旬
納入額	525,000円	標準履修の場合： 375,000円
	内訳) 入学金 150,000円 学納金 375,000円 [学納金の1/2]	内訳) 学納金 375,000円 [学納金の1/2]
		※長期履修学生制度及び授業料減免制度申請者は、申請が許可されたのち、その決定額に応じた残額の納入となります。
納入期限	上記1)に記載	3月末日

○一旦納入した学費は一切返還しません。ただし、入学手続きを完了した者で、**2026年3月31日(火) 17時00分(必着)**までに入学辞退届(任意作成)を提出し、入学時納付金の返還を申し出た場合には、入学金を除く授業料を返還します。

○学費納入金は、社会情勢によって次の年度に進むとき、変更することがあります。

3) 授業料減免制度について

指導教員の下で自らの実習または研究に専念しており、かつ常勤の雇用契約を締結していない学生に対して、授業料を減免する制度を設けています(厚生労働省の教育訓練給付制度における専門実践教育訓練給付金の受給対象となる学生を除く)。

授業料の減免を申請し許可された場合には、年額750,000円の授業料を年額200,000円減額し、年額550,000円とします。

10. ティーチング・アシスタント制度

藤田医科大学大学院では、大学院学生が藤田医科大学の教育業務を補助することにより学部における教育効果を高めることと、大学院学生に教育指導の機会を与え後継者の育成を図るとともに奨学に資することを目的として、ティーチング・アシスタント(T・A)制度を設けています。

T・Aの手当は、授業時間1時間当たり2,000円とし、1コマを1.5時間として算定します。ただし、支給対象時間は、授業の前後に行う準備や片付け等に要した時間を除く授業時間とします。また、T・Aの担当時間は年間180時間(120コマ)を上限とします。

11. 奨 学 金 等

1) 日本学生支援機構：第一種奨学金、第二種奨学金、授業料後払い制度

2) 学校法人藤田学園奨学金、学校法人藤田学園同窓会奨学金など

12. 修 了 の 要 件

以下の1)～2)をすべて満たすことを修了要件とします。

1) 修士課程に2年以上在学し、看護学領域においては、共通科目及びその他の分野の特論から12単位以上(ただし、共通科目は8単位以上)、専攻した分野から18単位、合計30単位以上を修得すること。急性期・周術期分野は、共通科目から6単位以上、専攻した分野から51単位、合計57単位以上を修得すること。

リハビリテーション学領域においては、共通科目及びその他の分野の特論から14単位以上(ただし、共通科目は8単位以上)、専攻した分野から16単位、合計30単位以上を修得すること。

2) 修士論文(看護学領域の急性期・周術期分野、臓器移植コーディネート分野においては課題研究論文)を提出し、論文審査及び最終試験に合格すること。

13. 長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、職業を有している等の諸事情により、大学院の教育課程を標準修業年限(2年)で履修することが困難な場合、標準修業年限を越えて3年又は4年で修学することを認める制度です。

学費については、標準修業年限分の授業料を長期履修期間で除した額が年額となります。

14. 昼夜開講による履修及び研究

社会に開かれた大学院教育の実現と社会人に対する再教育への要望から、本研究科では保健学の各領域における高度な知識や技術・研究能力・臨床能力を修得する機会を与えることを目的として、昼夜開講制を採用しています。

昼夜開講制とは、夜間や特定の時間又は時期に授業・研究指導の時間を設け、現に地域医療に携わっている社会人が大学院の授業・研究指導を受け易くするための制度です。

社会人による入学者を対象に、従来までの第1～5限の他に、第6限（18：00～19：30）、第7限（19：40～21：10）に授業を行うとともに、必要により土曜日、夏季休業期間の集中授業を設定することで便宜を図っています。

2025年度 共通科目 時間割（参考資料）

（前期）

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金	土
1 (9：00～10：30)						
2 (10：40～12：10)						
3 (13：00～14：30)		生命倫理学		医療安全特論		
4 (14：40～16：10)						
5 (16：20～17：50)						
6 (18：00～19：30)		看護研究法 リハビリテーション医学 リハビリテーション学概論	健康科学概論	臨床教育学 チーム医療論		
7 (19：40～21：10)		リハビリテーション医学 リハビリテーション学概論		運動機能障害		

■ 夜間講座

（後期）

時間 \ 曜日	月	火	水	木	金	土
1 (9：00～10：30)						
2 (10：40～12：10)						
3 (13：00～14：30)						
4 (14：40～16：10)						
5 (16：20～17：50)						
6 (18：00～19：30)		看護理論 コンサルテーション論		運動生理学特論 保健実践入門		
7 (19：40～21：10)						

■ 夜間講座

15. 看護学領域 急性期・周術期分野

本分野は、急性期・周術期分野の診療看護師（NP）を目指す看護師を育成します。

診療看護師（NP）は、高度な医学的知識と、医行為の修得により、患者ニーズにタイムリーに対応できる医療の提供と、チーム医療の要となることができ、自立して活躍できるという魅力があります。

本コースでは、特定行為に係わる研修制度の教育基準に適合する教育カリキュラムにより、フィジカルアセスメント、病態生理学、臨床薬理学、特定行為実践等を体系的に修得できるようになっています。それにより、21区分38行為すべての特定行為が実践できる診療看護師（NP）の育成を目指します。また、本学の特徴として、隣接する大学病院ですべての実習を受けることができます。なお、在宅医療実習は選択科目のため、選択希望者は別途実習費用が必要となります。

教育課程修了後は、日本NP教育大学院協議会が実施するNP資格認定試験の合格により、診療看護師として認められることになります。

急性期・周術期分野では、出願資格として、看護師免許を有し、入学時で5年以上の実務経験を有することが必要となっています。

急性期・周術期分野選択の場合の授業科目と単位数

	授 業 科 目 の 名 称	単 位 数		時間数	備 考
		必修	選択		
共通科目	保健学セミナー	2		30	
	健康科学概論	2		30	
	チーム医療論	1		15	
	医療安全特論	1		15	
看護学領域 急性期・周術期分野	フィジカルアセスメント	2		30	
	病態生理学特論	2		30	
	臨床薬理学特論	2		30	
	薬物治療学	2		30	
	クリティカルケア学特論	2		30	
	外科医療病態診断学特論	2		30	
	総合内科学特論	3		45	
	外科患者管理学特論Ⅰ	3		45	
	外科患者管理学特論Ⅱ	3		45	
	急性期患者管理学特論	3		45	
	在宅医療特論	1		15	
	急性期・外科患者管理演習	2		60	
	在宅医療実習		1	45	
	急性期・外科患者管理統合実習	19		855	
	急性期・周術期課題研究	5		150	

16. 授業科目と担当教員（2026年度予定）

1) 保健学研究科 保健学専攻（修士課程） 共通科目

領域	授業科目の名称	単位数	担当教員
共通科目	保健学セミナー	2	長谷川みどり
	生命倫理学	2	佐藤 勇
	健康科学概論	2	林 睦晴 長谷川みどり 世古 留美 小野木啓子
	保健実践入門	2	須釜 淳子 光田 益士
	看護研究法	2	須釜 淳子 村山 陵子 小柳 礼恵 光田 益士 三浦 由佳
	看護理論	2	皆川 敦子 宮本 美穂 小柳 礼恵 岡島 規子
	コンサルテーション論	2	伊藤 桜子
	チーム医療論	1	酒井 博崇
	医療安全特論	1	酒井 博崇 宮下 照美
	リハビリテーション医学	2	大高 洋平 柴田 斉子 平野 哲 前田 寛文 當山 峰道 松浦 広昂 松浦 大輔

領域	授業科目の名称	単位数	担当教員
共通科目	リハビリテーション学概論	2	金田 嘉清 寺西 利生 鈴木めぐみ 稲本 陽子 武田湖太郎 都築 晃 谷川 広樹
	運動生理学特論	2	寺西 利生 山田 晃司 大塚 圭 武田湖太郎 会津 直樹 上原信太郎
	臨床教育学	2	村岡 千種
	運動機能障害	2	寺西 利生 鈴木めぐみ 田辺 茂雄 大塚 圭 武田湖太郎 上原信太郎 谷川 広樹

2) 保健学研究科 保健学専攻（修士課程） 看護学領域

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
看護学領域	成人・老年看護学分野	成人・老年看護学特論Ⅰ	2	中村小百合
		成人・老年看護学特論Ⅱ	2	須釜 淳子 三浦 由佳
		成人・老年看護学演習Ⅰ	2	中村小百合 須釜 淳子 三浦 由佳
		成人・老年看護学演習Ⅱ	2	中村小百合 須釜 淳子 三浦 由佳
		成人・老年看護学特別研究	10	中村小百合 須釜 淳子 三浦 由佳
	精神・地域看護学分野	精神・地域看護学特論Ⅰ	2	世古 留美 宮本 美穂
		精神・地域看護学特論Ⅱ	2	世古 留美 宮本 美穂
		精神・地域看護学演習Ⅰ	2	世古 留美 宮本 美穂
		精神・地域看護学演習Ⅱ	2	世古 留美 宮本 美穂
		精神・地域看護学特別研究	10	世古 留美 宮本 美穂

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
看護学領域	母性・小児看護学分野	母性・小児看護学特論Ⅰ	2	藤原 郁 田崎あゆみ
		母性・小児看護学特論Ⅱ	2	藤原 郁 田崎あゆみ
		母性・小児看護学演習Ⅰ	2	藤原 郁 田崎あゆみ
		母性・小児看護学演習Ⅱ	2	藤原 郁 田崎あゆみ
		母性・小児看護学特別研究	10	藤原 郁 田崎あゆみ
	基礎・統合看護学分野	基礎・統合看護学特論Ⅰ	2	村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵 光田 益士
		基礎・統合看護学特論Ⅱ	2	村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵 光田 益士

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
看護学領域	基礎・統合看護学分野	基礎・統合看護学演習Ⅰ	2	村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵 光田 益士
		基礎・統合看護学演習Ⅱ	2	村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵 光田 益士
		基礎・統合看護学特別研究	10	村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵
	急性期・周術期分野	フィジカルアセスメント	2	中島 理之他
		病態生理学特論	2	河合 房夫 長崎 弘 小谷 侑 齋藤 奈子 亀山 俊樹 山下 貴之 大熊 真人
		臨床薬理学特論	2	水野 智博
		薬物治療学	2	水野 智博
		クリティカルケア学特論	2	酒井 博崇
		外科医療病態診断学特論	2	阿部 知伸他
		総合内科学特論	3	村松 崇他
		外科患者管理学特論Ⅰ	3	塩竈 和也他
		外科患者管理学特論Ⅱ	3	西山 悠也他
		急性期患者管理学特論	3	山下 千鶴他
		在宅医療特論	1	酒井 博崇 川上 友美 近藤 敬太 高橋 史織 橋川 有里 姜 琪鎬
		急性期・外科患者管理演習	2	酒井 博崇他
		在宅医療実習	1	大杉 泰弘 近藤 敬太 酒井 博崇
		急性期・外科患者管理 統合実習	19	中村 智之他
		急性期・周術期課題研究	5	林 睦晴 酒井 博崇 植西 憲達 伊東 昌広 船曳 知弘他

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
看護学領域	臓器移植コーディネーター分野	臓器移植に伴う倫理	2	朝居 朋子 長谷川友紀 明石 優美 添田英津子 宮下 照美 大宮かおり 瀬瀬 一枝 剣持 敬
		臓器移植医療論	2	剣持 敬 明石 優美 神宮司成弘 早川 基治 川治 崇泰 伊藤 泰平 松田 安史 深見 直彦 竹中 政史 石川 清仁 大河内 智
		臓器移植コーディネーター特論	2	朝居 朋子 明石 優美 瀬瀬 一枝 田崎あゆみ 秋場 美紀 添田英津子 谷口未佳子 丸 光恵
		《レシピエント移植コーディネーターコース》		
		レシピエント移植 コーディネーター演習	2	朝居 朋子 明石 優美
		レシピエント移植 コーディネーター実習	5	朝居 朋子 明石 優美 剣持 敬
		レシピエント移植 コーディネーター課題研究	5	朝居 朋子
		《ドナー移植コーディネーターコース》		
		ドナー移植 コーディネーター演習	2	朝居 朋子 明石 優美
		ドナー移植 コーディネーター実習	5	朝居 朋子 明石 優美 剣持 敬
		ドナー移植 コーディネーター課題研究	5	朝居 朋子

3) 保健学研究科 保健学専攻（修士課程） リハビリテーション学領域

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
リハビリテーション学領域	リハビリテーション教育科学分野	リハビリテーション教育科学特論Ⅰ	2	金田 嘉清 櫻井 宏明 田辺 茂雄 小山 総市朗 井伊 卓真 太田 皓文 鈴木 彰太 武田 和也 藤村 健太 吉田 太樹
		リハビリテーション教育科学特論Ⅱ	2	金田 嘉清 櫻井 宏明 田辺 茂雄 小山 総市朗 井伊 卓真 太田 皓文 鈴木 彰太 武田 和也 藤村 健太 吉田 太樹
		リハビリテーション教育科学演習	4	金田 嘉清 櫻井 宏明 田辺 茂雄 小山 総市朗 井伊 卓真 太田 皓文 鈴木 彰太 武田 和也 藤村 健太 吉田 太樹
		リハビリテーション教育科学特別研究	10	金田 嘉清 櫻井 宏明 小山 総市朗
	活動科学分野	リハビリテーション科学特論	2	寺西 利生 鈴木めぐみ 田辺 茂雄 大塚 圭 武田湖太郎 上原信太郎 渡辺 章由 山田 将之 谷川 広樹 中島ともみ

領域	分野	授業科目の名称	単位数	担当教員
リハビリテーション学領域	活動科学分野	活動科学演習	4	寺西 利生 鈴木めぐみ 大塚 圭 渡辺 章由 山田 将之 中島ともみ
		活動科学特別研究	10	寺西 利生 鈴木めぐみ 大塚 圭
	摂食・嚥下治療学分野	摂食・嚥下治療学特論	2	稲本 陽子 小野木啓子 太田喜久夫
		摂食・嚥下治療学演習	4	稲本 陽子 小野木啓子
		摂食・嚥下治療学特別研究	10	稲本 陽子 小野木啓子
	リハビリテーション生体医工学分野	リハビリテーション科学特論	2	寺西 利生 鈴木めぐみ 田辺 茂雄 大塚 圭 武田湖太郎 上原信太郎 渡辺 章由 山田 将之 谷川 広樹 中島ともみ
		リハビリテーション生体医工学演習	4	田辺 茂雄 武田湖太郎 上原信太郎 谷川 広樹
		リハビリテーション生体医工学特別研究	10	田辺 茂雄 武田湖太郎 上原信太郎
	リハビリテーション機能形態学分野	リハビリテーション機能形態学特論	2	山田 晃司 西井 一宏 松下 文雄 会津 直樹
		リハビリテーション機能形態学演習	4	山田 晃司 西井 一宏
		リハビリテーション機能形態学特別研究	10	山田 晃司 西井 一宏

17. 保健学研究科における特別研究の内容（2026年度予定）

* 予定であり、変更の可能性あります。

1) 看護学領域

分野	授業科目名及び担当者	特別研究の内容及び研究テーマ
成人・老年看護学分野	成人・老年看護学 特別研究 須釜 淳子 中村小百合 三浦 由佳	<p>（概要）慢性的な健康問題をもつ成人・老人患者・家族の看護ケアに関する研究を看護実践との統合を図りながら行い、修士論文を作成する。 特論・演習で学んだ理論や看護モデルを活用しヘルスプロモーションや慢性的障害のセルフケアに関する諸問題について探究する。成人・老人への看護ケア等に関する各自の研究課題を明確化し、看護研究を行い修士論文を作成する。</p> <p>（須釜 淳子）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢、疾患に起因するセルフケア能力低下を有する高齢者に生じる健康課題（排泄障害、褥瘡など皮膚障害など）に関する研究 2. 住み慣れた地域で生活を続ける高齢者を支えるテクノロジーを活用したケアモデルに関する研究 <p>（中村 小百合）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある糖尿病患者の支援に関する研究 2. 生活習慣病の予防に関する研究 3. コミュニケーションスキル育成に関する研究 4. 保健医療における多職種連携に関する研究 <p>（三浦 由佳）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下障害のアセスメント・ケア介入に関する研究 2. 高齢者のセルフケアを支援する機器開発と社会実装に関する研究
精神・地域看護学分野	精神・地域看護学 特別研究 世古 留美 宮本 美穂	<p>（概要）精神保健看護ならびに地域看護に関する研究課題を明確にし、研究を計画・実施し、修士論文を作成する。このプロセスを通じて、精神保健看護ならびに地域看護実践の発展に向けた基礎となる能力を養う。</p> <p>（世古 留美）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康寿命の年次推移と地域分布の評価 2. 介護保険に基づく平均自立期間の将来予測 3. 国民生活基礎調査の匿名データによる研究 <p>（宮本 美穂）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域高齢者と家族への支援に関する研究 2. 地域高齢者の介護予防に関する研究 3. 地域包括支援センターで働く保健師に関する研究
母性・小児看護学分野	母性・小児看護学 特別研究 藤原 郁 田崎あゆみ	<p>（概要）母性看護学では思春期から更年期までの対象及びその家族の看護に関する研究課題を明確にし、主体的・計画的に取り組み、修士論文を作成する。その過程で、母性看護学の発展に寄与するための基礎的能力を養う。 小児看護学では、あらゆる健康レベルの子どもと家族の看護について研究課題を明確にし、主体的に研究に取り組み、修士論文を作成する。その過程で、子どもの成長発達や自立を目指した看護、子どもの最善の利益を守る看護、子どもを支える家族の看護について探求し、質の高い小児看護を創造し変革していく基礎的能力を養う。</p> <p>（藤原 郁）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青年期における親性準備性・育児性に関する研究 2. 青年期における月経に関する研究 3. 産後の体形復古に関する研究 <p>（田崎 あゆみ）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患をもつ子どものセルフケア獲得支援および移行期支援に関する研究 2. 小児期に腎代替療法を必要とする子どもと家族への看護支援およびコーディネートに関する研究 3. 発達障がいをもつ子どもと家族の支援に関する研究

分野	授業科目名及び担当者	特別研究の内容及び研究テーマ
基礎・統合看護学分野	<p>基礎・統合看護学 特別研究</p> <p>村山 陵子 竹原 君江 皆川 敦子 小柳 礼恵</p>	<p>(概要) 看護教育学、看護管理学、看護理工学、ならびに社会実装看護に関する研究課題に取り組み、主体的・計画的に研究を進め、修士論文を作成する。その過程で、それぞれの専門分野の発展に寄与するための基礎的能力を養う。 各担当教員の主要研究テーマは以下のとおりである。</p> <p>(村山 陵子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理工学を基盤とした看護技術開発、および開発した技術の社会実装に関する研究 2. 第6のフィジカルアセスメントツールとしてのエコー可視化技術の開発・普及に関する研究 <p>(竹原 君江)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理工学的手法を用いた糖尿病足潰瘍予防やインスリンボール等に関するアドバンストスキケア開発と社会実装に関する研究 2. 臨床における研究シーズから新しい看護ケアを生み出し、広く臨床に還元するまでの一連あるいはその一部に関する研究 3. 看護基礎教育と臨床とのシームレスな教育環境の検討に関する研究 4. 看護職の働く環境や教育、患者教育に関する研究 <p>(皆川 敦子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門用語の理解を促す教育方法に関する研究 2. 模擬患者を活用した教育方法に関する研究 <p>(小柳 礼恵)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 皮膚・排泄ケア分野に関する研究（新生児期から老年期まで） 2. 看護管理、医療・看護の質に関する研究 3. 看護理工学を基盤とした排泄ケアに関する技術の実装に関する研究
急性期・周術期分野	<p>急性期・周術期 課題研究</p> <p>林 睦晴 酒井 博崇 植西 憲達 伊東 昌広 船曳 知弘 他</p>	<p>(概要) 各々が特論、演習、実習で得た知識、技術に基づき、チーム医療の観点から、周術期管理・救急医療・災害医療・高度先進医療（ロボット手術・移植医療・低侵襲手術・補助人工心臓治療など）・医療安全・医療経済・実習で担当した症例の課題などを研究し、発表を行う。加えて、研究に係る診断（症候を含む）・治療・看護などについても幅広く学習する。 グループワークやグループディスカッションを通して、問題解決能力を養い、適切な対処ができるようにする。</p>
臓器移植コーディネーター分野	<p>レシピエント移植 コーディネーター 課題研究</p> <p>朝居 朋子</p>	<p>(概要) 特論、演習、実習で得た知識、技術及び医療機関や臓器あっせん機関等での研修により、生体及び死体からの臓器移植のコーディネーションに関する研究課題を明確にし、臨床に根付いた視点から論文を作成する。このプロセス及び臨床研修を通じて、臓器移植のコーディネーションの臨床実践能力を修得し、かつその概念や理論の発展に向けて基礎となる能力を養う。</p> <p>(朝居 朋子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臓器移植治療を選択する患者・家族に対する意思決定支援方法に関する研究 2. 臓器移植各期におけるコーディネーションに関する研究 3. 臓器移植患者に対する看護介入（セルフケア・アドヒアランス・患者教育など）に関する研究 4. 生体ドナーに対する看護介入（長期ケア・患者教育など）に関する研究 5. その他、臓器移植に関する研究（移植システムや医療従事者の意識調査など）
	<p>ドナー移植 コーディネーター 課題研究</p> <p>朝居 朋子</p>	<p>(概要) 特論、演習、実習で得た知識、技術及び医療機関や臓器あっせん機関、組織バンク等での研修により、臓器・組織提供のコーディネーションに関する研究課題を明確にし、臨床に根付いた視点から論文を作成する。このプロセス及び臨床研修を通じて、臓器・組織提供のコーディネーションの臨床実践能力を修得し、かつその概念や理論の発展に向けて基礎となる能力を養う。</p> <p>(朝居 朋子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 死後の臓器・組織提供のコーディネーションに関する研究 2. 死後に臓器・組織を提供する患者の家族対応に関する研究 3. 臓器・組織提供及び移植のシステムに関する研究 4. 医療機関における臓器・組織提供の体制整備に関する研究 5. その他、臓器移植に関する研究（医療従事者や一般人の意識調査など）

2) リハビリテーション学領域

分野	授業科目名及び担当者	特別研究の内容及び研究テーマ
リハビリテーション教育科学分野	<p>リハビリテーション教育科学特別研究</p> <p>金田 嘉清 櫻井 宏明 小山総市朗</p>	<p>(概要) “リハビリテーション教育科学”は、学生の卒前教育、未熟な新人療法士の卒後教育、そしてこれらを指導するための指導者養成教育を研究対象とし、リハビリテーション医療に携わる各種療法士全体の教育における特性および有効な介入手法について科学的解明を目指す。本学の修士課程（リハビリテーション教育科学分野）においては、学生教育、新人療法士教育、指導者教育に関する理解を深めるとともにその一部の解明について研究を行っている。また一方で、リハビリテーション療法科学を専攻する院生にとっては、リハビリテーション教育科学を直接の研究対象とするかの如何に関わらず、理解を深めておくことは有益である。すなわち、本分野が取り扱う研究において、験者または被験者の対象を療法士とする機会は多く、研究に参加した療法士がどのような教育を受けてきたか、また今後対象とする療法士がどのような教育を受けることが予想されるのかについては、研究結果の解釈、または今後の研究計画立案において重要である。</p> <p>本分野の課程には、リハビリテーション教育科学特論Iおよびリハビリテーション教育科学特論II、リハビリテーション教育科学演習、リハビリテーション教育科学特別研究があり、リハビリテーション教育科学に特化したカリキュラムが設定されている。厚生労働省の定めた理学療法士作業療法士学校養成施設の専任教員の教員要件を満たす理学療法士作業療法士専任教員養成講習会と同等の内容を学修するには、これらすべての単位修得が必要である。</p> <p>(金田 嘉清)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 療法士の帰結予測に関する研究 2. 療法士の治療技術の標準化に関する研究 3. 療法士の臨床実習指導に関する研究 <p>(櫻井 宏明)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士・作業療法士のための臨床技能とOSCE (Objective Structured Clinical Examination; 客観的臨床能力試験) の開発 2. 理学療法士・作業療法士学生教育、新人療法士教育における臨床能力評価方法の開発に関する研究 3. 臨床指導者（理学療法士・作業療法士）が学生ならびに新人療法士を教育する上での臨床技術の標準化に向けた研究（臨床指導者養成コースの開発） 4. 理学療法士・作業療法士学生教育、新人療法士教育における客観的臨床能力試験 (OSCE)、問題解決型学習 (PBL: Problem Based Learning)、チーム基盤型学習 (TBL: Team-Based-Learning) の有用性に関する研究 <p>(小山 総市朗)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士・作業療法士の卒前・生涯教育に関する研究 2. 物理療法（電気、超音波、衝撃波、振動等）に関する研究 3. ロボット・ICTの臨床活用に関する研究 4. がん、神経系疾患の臨床データの活用に関する研究 5. 運動学習を促進させるフィードバック・意欲・注意・記憶に関する研究 6. 日常の身体活動や運動習慣に関する研究

分野	授業科目名及び担当者	特別研究の内容及び研究テーマ
活動科学分野	活動科学 特別研究 寺西 利生 鈴木めぐみ 大塚 圭	<p>(概要) 基礎研究、臨床研究を問わず活動障害をあつかう理学療法・作業療法に関わる臨床指向的な研究を行う。つまり、理学療法と作業療法を運動学、神経心理学、電気生理学、義肢装具学等を基礎とし、従来治療法の神経生理学・神経心理学的側面から検討する。また、身体因子や心理因子だけでなく、その個人を取り巻く環境因子とともに人は理解されるべきであり、その活動に対しては包括的にアプローチすることが重要である。</p> <p>活動科学分野では、生体計測法・治療技術・装具・福祉支援機器の開発を行い、後世にわたり広く臨床医療に貢献できるテーマを担当教員と討議し設定する。学生は、随時指導教員と討議しながら研究を進め、成果を学会、あるいは論文にて公表するとともに、修士論文を作成する。</p> <p>(寺西 利生)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の治療介入および帰結に関する研究 2. 病院内における転倒リスク評価と管理手法の開発 3. 臨床に有用性の高い動作分析手法の開発 4.トレッドミル歩行分析および動作分析に関する研究 5.トレッドミル歩行練習法の開発 6. 麻痺性疾患における装具療法に関する研究 <p>(鈴木 めぐみ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高次脳機能障害者の主観的・客観的QOLに関する研究 2. 高次脳機能障害者・認知症患者の評価・訓練に関する研究 3. 高次脳機能障害者の社会参加に関する研究 <p>(大塚 圭)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三次元動作解析装置を活用した臨床指向的歩行分析法の開発と臨床応用 2. ウエアラブルセンサを活用した臨床指向的歩行分析法の開発と臨床応用 3. 脳卒中片麻痺者の歩行の病態解明に関する研究 4. 脳卒中片麻痺者の動的バランス評価法の開発 5. 変形性股関節症患者の歩行の病態解明に関する研究 6. 歩行中におけるインシデントの定量分析
摂食・嚥下治療分野	摂食・嚥下治療学 特別研究 稲本 陽子 小野木啓子	<p>(概要) 摂食・嚥下治療学特論や演習において学び得た正常な摂食嚥下機能・構造、摂食嚥下障害の病態から一致した見解に至っていない点を整理・明確化し、臨床的意義の高い研究テーマを決定する。テーマは基礎系（解剖学・生理学・運動学的解析など）、臨床系（訓練効果、帰結評価など）まで多岐にわたる。選択したテーマに関するその時点までの研究論文を精読し、討論を行いながら、研究を計画、実施する。得られた結果をまとめ、解析し、解釈し、修士論文にまとめる。この過程をととして、研究遂行能力を培うことも重要視する。修士論文はその後主要な研究雑誌に投稿する。</p> <p>(稲本 陽子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 嚥下手技の運動学的検討 2. 舌筋力増強による嚥下動態変化の検討 3. 嚥下中の咽頭収縮強化に対する訓練の検討 4. 嚥下中の舌骨喉頭の運動動態の検討 <p>(小野木 啓子)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔期の評価方法の開発 2. 摂食嚥下リハビリテーションの帰結調査 3. 嚥下内視鏡・嚥下造影検査共通の重症度スケール開発

分野	授業科目名及び担当者	特別研究の内容及び研究テーマ
リハビリテーション生体医工学分野	<p>リハビリテーション生体医工学特別研究</p> <p>田辺 茂雄 武田湖太郎 上原信太郎</p>	<p>(概要) 基礎研究、臨床研究を問わず、リハビリテーションに関連した神経生理学、運動学、計測工学、治療・支援機器開発に関連した研究を行う。具体的には、四肢や姿勢の制御、治療的学習、臨床評価手法・リハビリテーションロボットなどについて健常者を対象とした基礎的研究および患者を対象とした臨床研究を行う。学生は随時指導教員と討議しながら研究を進め、関連学会にて成果を発表するとともに修士論文を作成する。学術論文として公表する価値があると評価された修士論文は学術誌へ投稿する。</p> <p>(田辺 茂雄)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動支援機器の開発に関する研究 2. 理学療法、作業療法の練習および評価の手法に関する研究 3. 運動機能、認知機能の計測および解析の手法に関する研究 <p>(武田 湖太郎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筋電図・トルク計測による客観的痙縮評価の研究 2. 脳機能に関する研究 3. 身体計測・分析・評価に関する研究 4. 測定や介入のための機器開発に関する研究 5. 手の心的回転とその臨床応用に関する研究 <p>(上原 信太郎)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動制御・学習に関わる神経・電気生理学的基盤に関する研究 2. 運動制御・学習を修飾する運動トレーニングに関する研究 3. 運動機能障害の特徴理解とその回復過程に関する研究 4. 運動機能障害の評価、および効果的な介入手法の開発
リハビリテーション機能形態学分野	<p>リハビリテーション機能形態学特別研究</p> <p>山田 晃司 西井 一宏</p>	<p>(概要) 筋をはじめとして骨、靱帯、腱、関節などの運動器と中枢神経系について肉眼的、組織学的な知識や理論に基づき、臨床においてリハビリを行う治療過程で発生する諸問題、予後の判定などに関して、形態と構造観察に留まらないその機能解析について説明する。解析方法として肉眼的、組織学的観察方法、行動解析手法を身につけ、免疫組織化学、生化学的、分子生物学的解析手法、神経心理学的手法を用いて、運動器系の組織、細胞の形態と機能、運動制御について明らかにする。また、神経系の解析においても同様な手法に加え動物行動解析を実施する。各種運動器系および中枢神経系の組織、細胞に関する多くの諸問題について各自の研究課題を明確化し、その仮定を実証した充実した修士論文を作成するための説明を行う。</p> <p>(山田 晃司)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫組織学的方法、遺伝子工学的手法、生化学的技術を身につけ、骨、筋の生理学的メカニズムを理解し、研究の進め方、文献の活用法、結果の評価方法を講義する。 2. 骨形態計測の実施とパラメータを算出し組織学的な骨解析の仕方を理解し明らかにする。 3. 多種にわたる運動負荷による骨や筋の形態的变化ならびにタンパク質発現の変動を解析する知識や技術を習得し、自己の研究課題を深め展開し明らかにする。 4. モデルマウスを使用して中枢神経系に与える運動の効果について行動解析、脳組織像解析を行い、それを引き起こす原因について探究する。 5. 神経心理学的手法を用いて、ヒトの運動制御に関与するヒトの身体認識を客観的に測定し、障害を呈した患者の運動制御戦略を理解する。 6. 脳波計を用いて、ヒトの運動制御に関与する身体特異性注意の神経基盤を明らかにする。 7. 関節運動や筋収縮を客観的に測定し、機能解剖学的視点から臨床で生じる各課題を解決する方法を探究する。 <p>(西井 一宏)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動物を用いた実験の立案方法、基本的な技術を説明する。 2. 組織学的手法を用いて脊髄神経におけるセロトニンニューロンの分布を明らかにする。 3. モデル動物における脊髄損傷後の運動器の変化を理解し、神経再生のメカニズムについて解析を行い明らかにする。

18. インターネット出願方法

1 出願手続き上の注意

- ①出願書類のうち、「出願理由書」、「就学承認書」、「出願書類チェックリスト」はインターネット出願ガイダンスの **出願書類** から印刷してください。
- ②出願登録上、一部の文字についてはエラーになる場合があります。
氏名や住所などの個人情報を入力する際に、文字が登録エラーになる場合は常用・当用漢数字を使用して入力してください。
例) 高木→高木 山崎→山崎 (ローマ数字) Ⅲ→(算用数字) 3
(丸数字) ①→(括弧書き数字、全角数字) (1)
合格通知書等に記載される文字は、入力された常用・当用漢数字を用いますので、ご了承ください。

2 インターネット出願の手順

☑手順1➡事前準備

下記①～⑤を準備してください。

①インターネットに接続できるパソコン、スマートフォン、タブレット等

OSやブラウザは、最新の状態にアップデートしておいてください。

なお、「インターネット出願ガイダンス」ページで推奨環境を公開しています。

②メールアドレス

常時利用しているメールアドレスを登録してください。

登録いただいたメールアドレス宛に、入試に関する諸通知が配信されます。

③A4サイズの印刷が可能なプリンター

「出願確認票」や「宛名ラベル」等を印刷する際に必要となります。

学校・勤務先等のプリンターやコンビニエンスストアのプリントサービス等でも構いません。

④「成績証明書」、「卒業（見込）証明書」等の出願書類

「成績証明書」、「卒業（見込）証明書」等は、準備に時間がかかりますので、時間に余裕をもって準備してください。

⑤顔写真データ

1) スーツ着用、正面上半身（胸から上、顔がはっきりわかるもの）、脱帽、背景無地にて出願時から3か月前以内に撮影した無加工・無修正のもの。

2) 縦横比＝4：3の顔写真データが必要となりますので必ずアップロードしてください。
自撮りは不可（出願時に登録された顔写真は原則学生証に使用します）。

3) データ形式はJPEG(jpeg-jpg)、画像の容量は3MB以内のもの。

☑手順2➡インターネット出願画面へアクセス（出願登録の開始）

藤田医科大学ホームページにアクセスし、保健学研究科 保健学専攻〈修士課程〉のページ（TOP＞学部・大学院＞保健学研究科（2024年度入学以降）＞入試情報）より、「大学院インターネット出願ガイダンス」のバナー（リンク）を押してください。

<https://www.fujita-hu.ac.jp/>

藤田医科大学

検索

☑手順3⇒入試情報の入力

試験区分、選抜方法、領域、分野、指導教員等を入力してください。

☑手順4⇒個人情報の入力

個人情報（氏名、生年月日、顔写真データ、住所、電話番号、メールアドレス、出身学校情報等）を入力してください。

- 顔写真データは画面上でサイズを調整して登録することができます。顔がはっきり映るよう適宜調整してください。

☑手順5⇒入力内容の確認

入力した内容に間違いがないか確認してください。

登録後は、入力内容の変更はできません。

☑手順6⇒入力内容の確認後、お支払い方法の選択

入学検定料支払い後は、入力内容の変更ができません。入力内容をよく確認し、入学検定料をお支払いください。

入学検定料の支払い方法には、次の3つがあり、個人情報の登録後に支払い方法を選択します。その後、代行会社ペイジェント社の画面に遷移します。

- ①クレジットカード決済は、選択の登録を行うと同時に支払いが決定します。最後に、

お支払い のボタンを押してください。

本学の「インターネット出願」ではクレジットカード決済において、「3Dセキュア2.0（本人承認サービス）」を導入しています。クレジットカード決済を選択した場合、取引の不正利用検知・防止のために、登録した氏名、電話番号、インターネット利用環境に関する情報等をクレジットカード発行会社へ提供させていただきます。

なお、クレジットカード決済を選択する場合、事前にクレジットカード発行会社のサイトで「3Dセキュア2.0」の登録を行ってください。「3Dセキュア2.0」の詳細および登録方法は、クレジットカード発行会社にお問い合わせください。

※本人認証サービス3Dセキュア2.0とは、決済時にクレジットカード番号、有効期限等の情報に加え、お客さまがクレジットカード発行会社にあらかじめ登録したパスワードをご入力いただくことでカード会員さまご本人であることの認証を行うサービスです。

対象ブランド：Visa・Mastercard・JCB・Amex・Diners

- ②コンビニエンスストア、ペイジー（銀行ATM）による支払いは、代行会社ペイジェント社の画面に、支払い時に必要な番号が表示されます。

番号は、必ずメモをとるか、画面を印刷してください。最後に、**購入したサイトへ戻る**のボタンを押してください。

- ③インターネットバンキングによる支払いは、登録完了画面から選択後、案内に従ってください。

注）領収書（レシート）、取扱明細書兼領収書等は保管してください。

☑手順7⇒登録完了・検定料の支払い

ここまでの入力で、試験情報、個人情報の入力、検定料の支払いの受付は一旦完了です。

1. 「マイページログイン情報（ユーザID（メールアドレス）、パスワード、整理番号）」を必ずメモ、印刷してください。出願内容の確認、出願確認票・宛名ラベル等の再印刷に必要です。

2. 検定料の支払い方法でクレジットカード以外を選択した場合は、各（金融）機関で速やかに支払い手続きを済ませてください。

- お支払いの際、入学検定料を支払った整理番号の出願書類しか受理できません。修正等を理由に、新たに登録し直した場合は、整理番号に注意して検定料のお支払いや出願書類の提出等の手続きを進めてください。

☑手順8⇒出願書類の提出（直接持参、郵送）

1. 出願書類をA4サイズの用紙を使用してプリンターで印刷してください（出願書類についてはP.5～P.6「4. 出願手続」「4）提出書類」を参照してください）。
2. 封筒（角形2号、240mm×332mm）のおもてに宛名ラベルを貼り付け、出願書類を封筒に入れ、大学院保健学研究科入試係まで書留速達郵便で送付していただくか、直接持参してください（締切日必着）。

③ 受験票の印刷

☑手順1⇒インターネット出願画面へアクセス

- ②インターネット出願の手順の☑手順2と同様の手順で「インターネット出願ガイダンス」の画面にアクセスしてください。

☑手順2⇒ガイダンス画面の「マイページ」へログイン

- ①ガイダンス画面トップの **マイページ** ボタンを押してください。
- ②登録したID（メールアドレス）、パスワードを入力して、 **ログイン** ボタンを押してください。

☑手順3⇒受験票の印刷

- 申し込み一覧の各種確認から **受験票** ボタンを押し、表示される受験票を印刷してください（大学から郵送することはありません）。
- 印刷した受験票は、受験及び入学手続の際に必要なため、各自大切に保管してください。

19. 受験者注意事項

- 受験の際は、必ず受験票を携帯してください。
- 試験開始後20分以上遅刻した者は試験室に入ることはいけません。
- 試験時間中机の上に置けるものは、受験票、英語辞書（電子辞書は除く）、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、プラスチック製消しゴム、鉛筆削り、眼鏡、ハンカチ、目薬、時計（計算・辞書機能等がついている多機能時計を除いた、時計機能のみの腕時計及び小型の卓上時計）、ティッシュペーパー（袋から中身だけを取り出したもの）です。これ以外は認めません。（多機能時計、スマートフォン、スマートグラス、携帯電話、音の出る機器、イヤホン、耳栓、下敷き、ペンケース、定規類、シャープペンシルの芯ケースの使用は認めません。）
- 試験会場では、スマートフォン及び携帯電話は、電源を切ってカバンの中に入れてください。
（試験時間中、スマートフォン、スマートグラスや携帯電話等の電子機器類を使用した場合は、不正行為と見なします。また、身につけていたり手元にあった場合、使用の有無にかかわらず不正行為となることがありますので、注意してください。）
- 受験当日は、昼食を持参してください。
- 会場によっては時計が設置されていない場合がありますので、ご自身で時計を持参してください。（多機能のもの、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは認めません。）
- 試験室の入室は8時45分から可能です。
- 試験会場の下見については、建物内への立ち入りはいけません。会場までの交通機関、道順、所要時間、建物の位置の確認に留めてください。
- 急な病気等で通常の試験室での受験に支障がある場合は、事前に連絡してください。
身体上の障がいや疾病により、受験・修学に際し特別措置を希望する場合は、事前相談が必要です。出願締切日の2週間前までに大学院保健学研究科入試係まで申請してください。
- 試験当日は原則、公共交通機関を利用してください。その際、降雪等による交通機関への影響などに留意し、遅刻しないように十分注意してください。
- 試験室においては、すべて監督者の指示に従ってください。

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症にかかった場合の対応等について

- 試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ・はしか等）にかかり、治癒していない場合、その感染症が他の受験生や監督者に拡がるおそれがありますので、受験をご遠慮願います。なお、受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として入学検定料の返還は行いません。
- なお、感染症の感染状況によっては記載されている試験内容と異なる方法で選抜を実施することがあります。変更が生じた場合は本学のホームページにて随時公表いたします。

20. 入試に関する個人成績の開示について

入学試験（学力試験）の個人成績について、受験生本人（不合格者に限る）から申請があった場合に限り、次の要領で開示します。

1) 開示内容

学力試験（科目別）の得点、平均点

2) 申請期間

2026年5月1日（金）～2026年5月14日（木）申請期間内の消印があるもの限り受け付けます。なお、開示は2026年6月8日（月）からとします。

3) 申請書類

(1) 学力試験個人成績開示申請書（本研究科ホームページよりダウンロード）

(2) 受験票（コピー不可）

(3) 返信用封筒

宛名を明記した**定形封筒**（サイズ120mm×235mm）に切手460円分を貼付してください。簡易書留にて返信します。

4) 申請先

〒470-1192 愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪 1 番地98

藤田医科大学大学院 保健学研究科 入試成績開示係（大学3号館1階）

(注) 申請に際して、受験票は本人確認として必要になりますので、大切に保管してください。

受験票は成績に同封して返却いたします。なお、受験票を紛失した場合は如何なる理由でも開示しません。

21. 個人情報保護について

個人情報の保護に関して、藤田医科大学大学院保健学研究科では次のとおり扱います。

1) 利用目的

出願にあたり提供された氏名、住所、電話番号等の個人情報は、次に掲げる目的のみに利用します。

(1) 入学者選抜、合格発表、入学手続等、入学までの一連の業務を行うため

(2) その他、本大学院の教育・研究、学生支援に必要な業務を行うため

2) 第三者への個人情報の提供について

個人情報の第三者への提供は、次に掲げる場合に限ることとします。

(1) 本学大学院保健学研究科入学者について、名簿作成及び各種連絡通知等に使用するために藤田学園の同窓会等に提供する場合

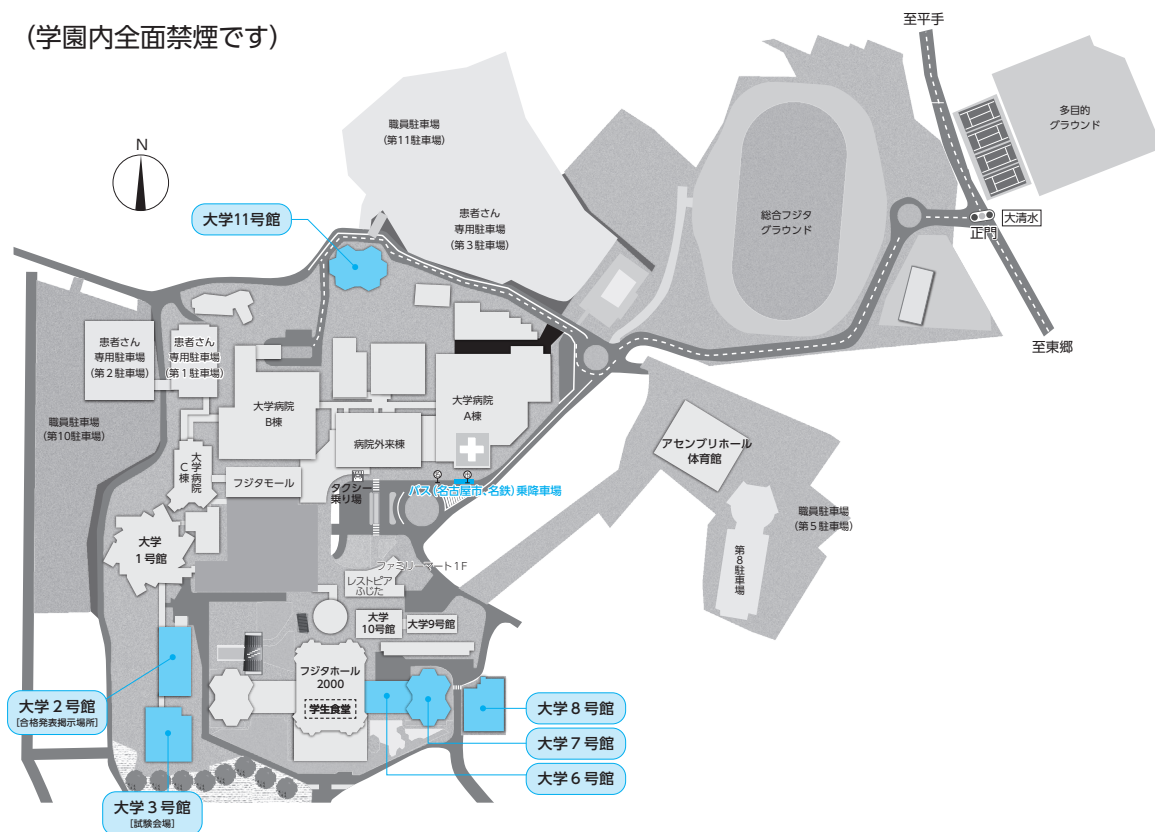
(2) 法律で定められた適正な手続きにより情報開示を求められた場合

(3) クレジットカード発行会社が行う不正利用検知・防止のために、氏名、電話番号、emailアドレス、インターネット利用環境に関する情報等を、クレジットカード発行会社へ提供する場合（利用されているカード発行会社が外国にある場合、これらの情報は当該発行会社が所属する国に移転される場合があります）

22. 試験会場地図

試験会場：本学 大学3号館

(学園内全面禁煙です)

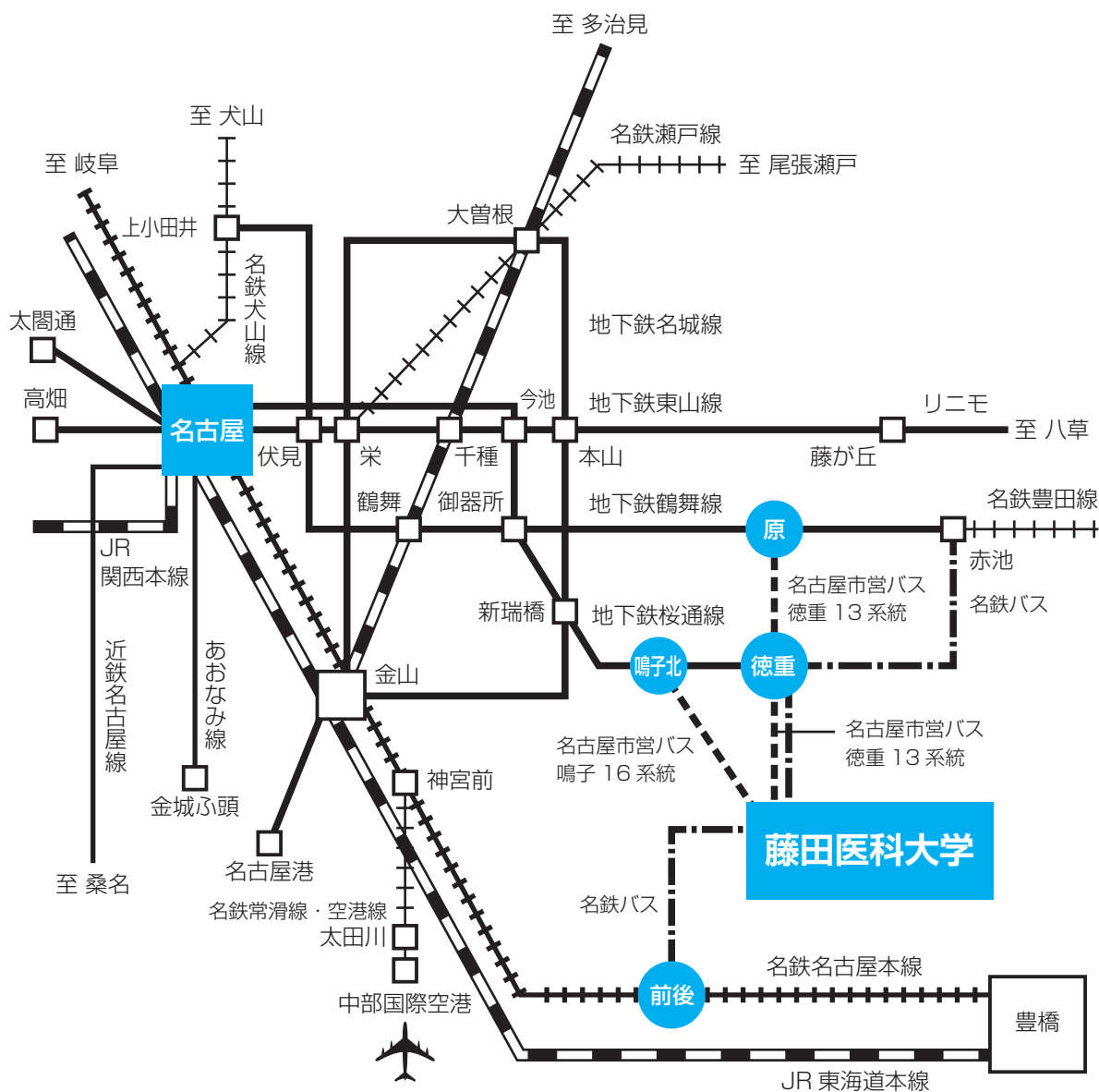
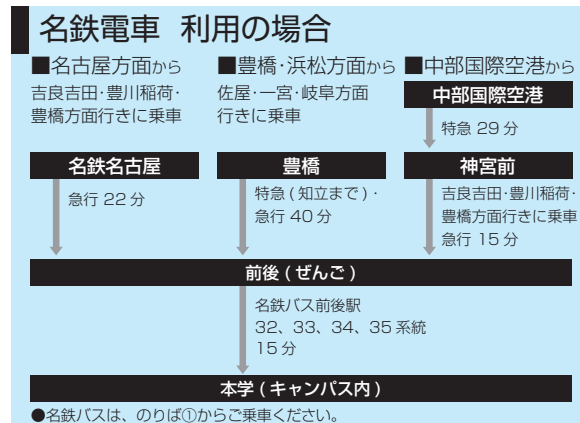
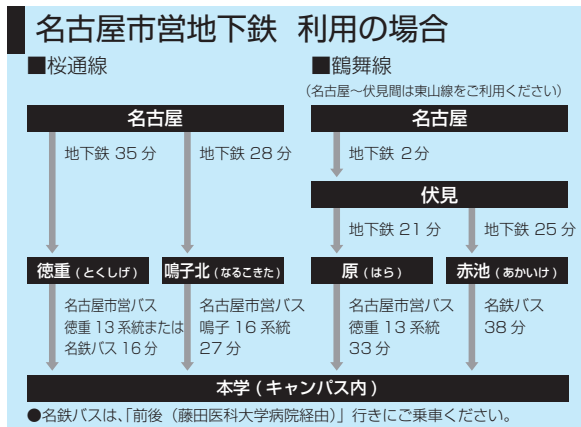


試験当日は、会場案内に従って、指定の校舎で受験してください。

- 試験当日は、学内が混雑しますので公共交通機関でお越しください。
学内には受験生用駐車場はありません。

23. 交通案内

公共交通機関でお越しの方は



FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

2026



藤田医科大学大学院保健学研究科
FUJITA HEALTH UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF HEALTH SCIENCES

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

入 試 係 TEL:0562-93-9080 FAX:0562-93-4595

(土曜・日曜・祝日・開学記念日(10/10)など学内休日・年末年始(12/29～1/3)は受け付けていません)